

東照宮へ、ロマネスク日光街道⑩1日目 雀宮宿～宇都宮宿

開催日：2024年1月21日（日） 天候：雨のち曇 一般 歩数：22000歩 距離：15km

集合：JR東北本線雀宮駅 11時

コース：JR雀宮駅→雀宮神社→宇都宮南郵便局前→サイゼリヤ（昼食）→一里バス停→不動堂→
不動前通り→蒲生君平勅旌碑→新町のケヤキ→台陽寺→一向寺→報恩寺→光琳寺→佐野口木戸跡
→四ノ筋→一ノ筋→宇都宮城二の丸土塁・堀跡→本丸広場→富士見櫓～樹齢400年の大いちょう
→大谷石造りのカトリック松が峰教会→宇都宮二荒山神社→県道1号→宝蔵寺→宮の橋→
JR宇都宮駅→ホテルサンシャイン宇都宮

参加者：熊坂L 奥村SL 勅使河原 高橋文 奈良 清水 市村 小田 高橋友 山口 田村 11人

大寒翌日の1月21日、平塚駅7時30分発の東海道線に乗車して上野駅で宇都宮線に入りました。日光街道歩きは栗橋駅あたりから宇都宮線に沿ってウォーキング。車窓からの景色を眺めて今まで歩いて来た日光街道を振り返っていると、3時間ほどの「旅」も終わり雀宮駅に着きました。

1日目は気象情報とおり雨のウォーキングでスタート、日光街道を北進して宇都宮市街地へ入りました。宇都宮市は北関東で最も人口が多い52万人、広大な宇都宮城下町の西側、台陽寺、一向寺、報恩寺、光琳寺の古刹を巡り、雨も上がった宇都宮城址を見学。大谷石造りのカトリック松が峰教会、宇都宮二荒山神社を巡って16時50分にサンシャインホテルへ着きました。歩数2万2000歩、距離15km、雨のち曇りの「日光街道⑩1日目雀宮宿～宇都宮宿」でした。



法恩寺の茅葺山門前で

雀宮駅 雨 レインウェアに身を包み11時5分にスタート～雀宮神社

集合は、JR宇都宮駅一駅手前の雀宮駅。気象情報とおりの雨で、高架駅舎から見える景色は雨に煙っています。駅改札前の空きスペースでレインウェアに身を包み、リュックサックにはカバーをかけて雨対策OK、熊坂リーダーがコース説明。「止まない雨はない」と楽天的なみなさん、笑顔で11時5分にスタート。駅前から西に進み、日光街道に出て北進。11時15分に雀宮神社へ、新旧の狛犬が出迎えてくれました。



雀宮神社～東京まで100km標識～宇都宮南郵便局前～自動車関連会社

雀宮神社には、「百人一首の歌人・藤原実方が陸奥守に任じられて奥州に向かったとき、妻が後を追いかけるがこの地で亡くなってしまう。村人は妻の遺言に従い持っていた宝珠を埋め、社殿を建て産土神として祀った。後年、実方の靈魂が雀になって飛来して社殿に入ったことから雀宮神社と呼ばれるようになった」という伝説があります（リーダー説明）。「ウォーキングの安全と早く雨が上がりますように」と祈願。街道に出ると「東京まで100km」の標識。宇都宮南郵便局前を通過して宇都宮市入りを実感。自動車関連の看板が目立ってきて、遅ればせながらも写真撮影、トヨタ販売所、タイヤ市場、FUSOと続きます。



「自動車関連会社通り」～東京まで103km標識～サイゼリヤで昼食

まだまだ続き、まるで「自動車関連会社通り」のようです。栃木日野自動車、タイヤ館を経て「東京まで102km」標識。そこから1kmの間に、トヨタ中古車、ホンダ、宇都宮車検工場、DENSO、スズキ、カローラ栃木と6つも連なっていました。「東京まで103km」標識、まだまだ自動車関連会社が続いていますが、昼食予定のサイゼリヤに着きました。時刻は12時5分、昼時で混んでいましたが、一番奥に4人席3テーブルが確保できました。サイゼリヤはアフターでしばしば利用しますが、ランチは初めて。ボリュームたっぷりのディアボラ風ハンバーグにライスとコーンクリームスープを注文、美味しくいただき満腹。



サイゼリヤ 13時～一里バス停～日光へ31km標識～不動堂～不動前通り

ランチタイムをゆったり過ごして13時、いくぶん空が明るくなり「雨上がり」を期待してスタート。直線道路を北へ5分ほど歩くと日本橋から26番目の江曾嶋一里塚があったところへ、「一里」バス停、「一里信号」、「一里踏切」の名称にその名残りが残っています。さらに10分ほど進むと「直進宇都宮市街、右国道4号」の標示板、ここで国道4号と分かれれます。右手に2階建て瓦屋根の屋敷と大谷石の蔵が見えました。「日光街道、日光へ31km」の標識、少し進むとJR日光線の橋上を通過。旧奥州街道と奥州街道の分かれ目にあった不動明王を祀った不動堂のある追分に到着。左の奥州街道・日光街道の不動前通りに入ります。



蒲生君平勅旌碑 「下野国宇都宮城下絵図」～新町のケヤキ～台陽寺

東武宇都宮線の高架下を通り、蒲生君平（ぐもうくんぺい）勅旌碑へ。蒲生君平は明和5年（1768年）宇都宮の新石町で生まれ、歴代天皇の御陵が荒廃していることを悲しみ「山稜志」を著し修復を説きました。碑の脇に「下野国宇都宮城下絵図」が掲示されていて、現在位置は南の城下町入口だと分かります。日光街道・奥州街道が城下町西を北上、右に折れて東へ、日光街道はすぐに左へ折れて北上、奥州街道はそのまま東へ続いていることも分かりました。少し進んで旅人の目印となっていた「新町のケヤキ」へ、現在は伐採されていて空洞になっている根回りだけが残っていました。さらに北上、慶長10年（1605年）に宇都宮城主奥平家昌により建立された台陽寺へ。参道脇に六地藏が立っていて、その奥の東屋で小休憩です。



一向寺 汗かき阿弥陀～雨あがる～法恩寺～光林寺 官軍と旧幕府軍の墓

台陽寺を出て一向寺へ、「仏である銅造阿弥陀如坐像は異変が起こる前に汗をかいて知らせる」といわれ汗かき阿弥陀と親しまれています。日曜日に拝観できるということで、みなさん本堂の中を覗いていますが見当たりません。阿弥陀如坐像は隣の小さなお堂の中でした。一向寺から法恩寺へ、山門は茅葺で江戸時代初期のものと伝わっています。戊辰戦争で亡くなった薩摩藩士の墓（写真）と薩摩・長州・大垣諸藩の墓が参道を挟んで向かい合っています。山門の前で集合写真撮影。寺巡りが続き光林寺へ、境内に戊辰戦争で戦った官軍の墓（写真）と旧幕府軍の墓がへだたりなくありました。時刻は14時45分、雨が上がりました。



佐野口木戸跡～四ノ筋～一ノ筋～宇都宮城二の丸土塁・堀跡～本丸広場

光林寺を出て、日光街道から外れて東の宇都宮城址公園方面へ進みます。佐野口木戸跡の標識、「この付近は宇都宮城の西方に位置し、城内と町人町を板塀で仕切り出入口を設けました。ここは佐野道に通じていたので佐野口木戸と呼ばれていました。木戸を入ると武家屋敷になります」と書かれています。進んで行くと四ノ筋から一ノ筋まであって、城に近い一ノ筋へ行くほど屋敷が広がったようです。東武東上線の高架下を通り、宇都宮市役所の敷地の中を歩き、宇都宮城二の丸土塁・堀跡へ。右前方に富士見櫓が見えてきました。おほり橋を渡り本丸広場へ、土塁下に作られたまちあるき情報館に入って屋台などを見学しました。



富士見櫓～樹齢400年の大いちょう～大谷石造りのカトリック松ヶ峰教会

エレベーターで土塁上に上がりました。本丸広場を見下ろしながら富士見櫓へ、築城当時は城下町が一望できたのでしょうか東武宇都宮駅やJR宇都宮駅の北方面にはビルディングが林立しています。記念写真を撮り、本丸広場を下りて宇都宮城址公園を後にしました。いちょう通りに出ると、三の丸と百間掘りの境の土塁の上に大いちょうが健在でした。宇都宮市は、1945年7月12日の大空襲で中心市街地の約半分を焼失して多くの犠牲者を出しました。大いちょうも真っ黒に焼けましたが翌年には再生、宇都宮市民を勇気づけました。推定樹齢400年、樹高33m、目通り周囲6・4mの大木です。その先に「鉄砲町」という看板の寿司屋がありました。松ヶ峰教会通りを進み、カトリック松ヶ峰教会に入りました。大谷石建築としては現存最大級で、1998年に国の登録有形文化財に登録されています。



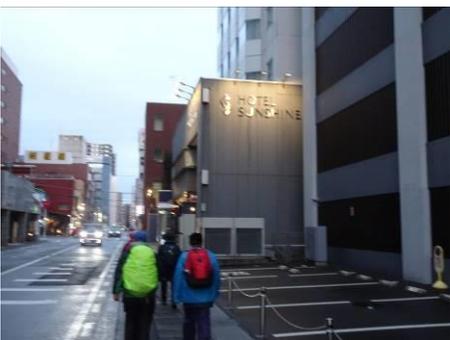
ORIONアーケード商店街～宇都宮二荒山神社～県道1号～宝蔵寺

15時50分、松が峰教会を出ます。風が冷たくなってきました。ORIONアーケード商店街を横切り16時丁度、大きな鳥居の宇都宮二荒山神社へ。「下野国で一番格式が高いとされ下野国一之宮と呼ばれていた。イチノミヤが訛ってウツノミヤになったという一説がある」(リーダー資料より)。大分疲れ出てきて息が切れそうな急峻で長い参道石段を上り本殿に参拝。石段下から集合写真を撮りました。バスや自動車の交通量が多い県道1号の大通りを、東のJR宇都宮駅方面へ進みます。江戸時代に夕暮れになると宇都宮城下に鳴らされたので「おより(御寝り)の鐘」として親しまれた鐘楼門をくぐり宝蔵寺に参拝しました。



宮の橋～JR宇都宮駅～16時50分 ホテルサンシャイン宇都宮

宝蔵寺を出てさらに東へ、JR宇都宮駅が大きく見えてきました。田川に架かる宮の橋を渡ります。宇都宮名物の餃子の色鮮やかな看板が目につきます。16時40分にJR宇都宮駅に到着、駅前広場に大きな餃子のモニュメントがありました。駅改札通路を抜けて東口へ、雨の中を歩いて来たご褒美のように北東の空に大きな虹がかかりました。この日の宇都宮市の日の入りは16時53分、少し前の16時50分に宿泊先のホテルサンシャイン宇都宮へ着きました。ホテルの部屋で荷物の整理などをして、オリオン餃子宇都宮駅東店で夕食懇親会。店内は若い人で満席、リーダーが4人席3テーブルを予約してくれましたのですんなり着席。アルコール組はビールで乾杯、羽根付き餃子などいろいろな餃子に舌鼓、一日の疲れが取れました。



いちむら記)